

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣研究報告書

2012年 10月 10日

派遣者氏名（専門分野）	田 由甲 （ 東洋史学 ）
-------------	---------------

下記のとおり報告します。

記

研究テーマ	中国近世、福建沿海地域における基層社会の形成・展開 ——「境」を切り口とする考察——
-------	---

派遣期間

2012年 09月 09日 ~ 2012年 09月 19日

	国	都市	訪問機関	受入研究者
訪問 研究 機関	台湾	台北	中央研究院	
	台湾	台北	国立台湾大学図書館	

派遣先で実施した研究内容

1. 中央研究院

①近代史研究所図書館

データベースを利用して関連史料を収集するとともに、所蔵資料から重要史料を閲覧・複写した。本図書館では、中国史研究関連の多くのデータベースに無料でログインできる(<http://lib.mh.sinica.edu.tw/wSite/mp?mp=HistM>)。そこで、これまでアクセスする機会が無かった「全国報刊索引数拠庫」を利用し、清末から民国年間(1833-1949年)に中国の全国紙として発行された新聞の記事を対象に、報告者の研究に関わるキーワードで検索した。さらに、当該時期の福建地域の廟宇に関する記事を、「申報」データベースからも検索し、必要な記事をコピーした。

また、本図書館の蔵書のなかから、1983年に安海鎮老人会が編集し、内部発行した『安海郷土史料簡編』を発見し、コピーした。これは、今まで報告者が訪れた福建省図書館や晋江県図書館にも所蔵されていなかったものである。内容も、報告者が研究している福建省晋江県安海鎮の「境」について古老が口述したものが多く掲載されており、「境」に関する研究を更に豊富にする貴重な史料である。これにより、研究を一層深めることが予想できる。

②歴史語言研究所傅斯年図書館

蔵書のコピーと新刊雑誌の閲覧を行った。具体的には、傅斯年図書館所蔵の『福州事情』を閲覧・コピーした。『福州事情』は、台湾総督府外事部が福州を対象に調査・収集した各種資料をとりまとめた報告書で、1930年代福州市の事情を多面的に記録している。その中でも、「風俗」類が豊富で、福州の伝統民間行事、「境」の組織や儀礼などが詳細に紹介されている。かつ、この調査報告書は日本でも少数の図書館にしか収蔵されておらず、入手が困難であるので、今回コピーすることができたことは、研究にとってまことに有用である。

裏面に続く

③台湾史研究所檔案館

データベースを使用。台湾史研究所の檔案館には当該研究所が製作に関わったデータベースを使用できるパソコンが2台設置されている。また、その中、「日治時期台湾研究古籍資料庫」(<http://rarebooks.ith.sinica.edu.tw/sinicafrsFront99/index.htm>)というデータベースでは、台湾史研究所資料室が所蔵する1950年以前の貴重な書籍・雑誌・地図などを画像データで見ることができる。報告者は、そのうちの『福州事情』という書籍に付された1934年の地図「福州市街図(縮尺:一万分の一)」(②傅斯年図書館所蔵本では散佚)をカラー印刷し、「境」の場所が記された道路名・廟名をそこから読み取ることができた。

2. 台湾大学図書館

図書館地下一階の「博碩士論文暨指參專室」で、日本の科研報告書にあたる「国科会報告書」を教員出版物コーナーにて撮影。今回撮影したのは台湾大学歴史系の徐泓教授が1994年度に実施した研究項目における報告書で、1995年に行政院に提出された「明清福建城市研究—以城市形制空間結構管理制度與營造活動為主—」である。当該報告書は、明清時期(14c~20c)における福建地域の都市化と築城運動を知るうえで重要なデータを、多数の地方志から収集した研究資料集でもあり、「境」の出現と都市化の関連性を探るためには不可欠なものである。

3. 南港信天宮の創設三十週年祝祭「巡境」儀式を見学

計画外であるが、台北南港の中央研究院滞在中に、南港地域の媽祖廟の一つである信天宮の創設三十週年の記念行事があることを知り、これを見学した。本行事は、報告者が福建地域を対象に研究している「境」という地域単位の神に対する祭祀儀礼と共通する内容をもつことが推測される。すなわち、本行事は、神像を乗せた神輿がその神が管轄する「境」と称される領域内を巡遊することで、厄を払い、福を伝播するものである。なお、神輿以外にも様々なチームによる出し物が、神輿とともに「境」を巡る。今回、このような「境」を巡遊する祭祀儀礼や、各演出チームの神へ捧げる儀礼などを見学・撮影することができ、さらに、本行事を主催した人々に対する聞き取りができたことは、予想外の成果であった。

研究の当初の目的・計画の達成状況、明らかにできた成果

今回の渡航の当初の目的は、派遣を通じて文献史料と研究文献を収集することと、資料検索方法の更なる効率化のための現地の資料収蔵機関における種々の試行であった。また、前述の通り、台北南港における信天宮の「巡遊」儀礼を見学できた。そこで、今回の渡航で得た成果をまとめると以下になる。

② 渡航前に計画した「境」に関する文献史料と研究文献をほぼ全部入手することができた。

② 計画外の発見として、希少図書、また、植民地時代の台湾で刊行された地図・書籍を閲覧することができ、また中央研究院の諸研究所に新たに導入されており、かつ日本で利用困難なデータベースを使用することができたので、自身の研究テーマを深化させるうえで大いに有益であった。

③ 文献資料収集以外の貴重な成果として、南港信天宮の創設三十週年の「巡境」儀礼を見学できたことがある。偶然ではあるが、この地域神への祭祀儀礼は、報告者が研究している福建地域の「境」で行われる祭祀儀礼と非常に類似していることに驚いた。渡航前の計画書に書いたとおり、台湾の西海岸地域(台北市・金門県・基隆市・台南市など)には、福建沿海部と同じく、地域の神を祭祀するものとして「境」と呼称される地域単位が存在する。加えて、今回見学した南港信天宮の「巡遊」儀礼は、報告者が福建で見学した「境」の「巡遊」儀礼と酷似しており、両地域の「境」の共通性を示すだけでなく、ここから両地域の比較研究にもつながっていくと思われる。

派遣後の研究発表の予定

2012年11月2日、大阪大学文学研究科 OVC 海外派遣報告会にて報告する予定。